

## 鳥取県における「学び直しを考える」夜間シンポジウム・パネルディスカッション質疑・応答（概要）

小中学校課

## 1 日時及び会場

	東部会場	西部会場
日 時	令和3年9月25日（土） 午後1時30分から午後3時50分まで （受付は午後1時から）	令和3年9月26日（日） 午前10時から午後0時20分まで （受付は午前9時30分から）
会 場	鳥取県立生涯学習センター 県民ふれあい会館5階講義室、4階大研修室	米子市淀江文化センター さなめホール

## 2 質疑・応答（1日目）

## (1) パネリスト質疑・応答

パネリスト	<p>&lt;夜間中学における鳥取県の方向性について&gt;</p> <p>○ 夜間中学へのアクセスについて</p> <p>県立で設置することにより広域になる。鳥取県の場合、鳥取市と米子市が東西に分かれる形になっている。県内の様々な方々にどうアクセスしていただくかが大きな課題としてあるのではないかと。</p> <p>鳥取県に限らず多くの自治体が直面している問題である。例えば令和4年度に北海道は札幌市に開校するが、どこまでアクセスを確保していくことができるのか、オンラインを活用してということになると、夜間中学で目指すところをどこまで実現できるのかをよく考えながら進める必要がある。</p>
パネリスト	<p>○ 鳥取市に夜間中学を設置し、その後、遠隔学習、分校（分教室）設置を検討していることについて</p> <p>非常に合理的な選択をしている。（夜間中学は）徳島県も含めてまだまだ認知度が低いのが全国的な課題である。夜間中学の潜在的なターゲットにアクセスするのがまだまだ難しいと考えている。各地に夜間中学が設置されることにより、段々と夜間中学に関する認知度が高まっていくことが必要と考えている。徳島県のように、新聞広告、研修会や自治会等に出向いて周知を図っていくことが重要。例えば、スーパーなどに出向いて協力をお願いすることも考えられる。</p>
パネリスト	<p>○ ひきこもりについて</p> <p>集団で学ぶパワーがない方が、パワーがたまったときにもう一度学ぶ機会としての夜間中学は大きな意味があると考えている。</p> <p>（義務教育は）保護者に就学の義務があり、実質的に子ども達は学校に通うことを求められている。（義務教育は）子ども達が社会に出て、ちゃんと活躍して、ちゃんと判断できて、社会に参画できるようにするリテラシー（ある手段を適切に活用するための知識や能力）を身に付けさせるという意味で同じスタート地点に立たせる。その強制性に馴染めない子がいるのも事実である。馴染めない子ども達をケアする一つの選択肢として、夜間中学を広めていきたい。</p>
パネリスト	<p>○ 夜間中学の認知度を上げることについて</p> <p>（徳島県は）チラシ、ポスターの配布。民生委員や保護司等地域に密着している方に夜間中学の話をして、周りの方に伝えていただいている。あとは、マスコミの力を借りての周知。</p>
パネリスト	<p>（ひきこもり支援センターは）東部中部西部に拠点を置いて相談対応している。小地域に出向き、情報を届けて対象者となつて努力が必要。潜在的なニーズの方々を知っていただくのが課題。</p>

パネリスト	<p>○ 遠隔学習、分教室について</p> <p>(徳島県は) 遠隔地から通っている。広域で生徒募集を行えたというメリットはある。(24市町中10市町から通学) 一番遠いところではJRで片道2時間かけて通っている。自動車による通学も認めている。</p> <p>県立夜間中学設置にあたり、課題になったのは、遠隔からの通学と学齢期の編入学について。まずは、しらすぎ中学を開校して、夜間中学の運営が確立した後に、分教室等の遠隔地の学びや学齢期の生徒に編入学について検討していくことになった。</p>
パネリスト	<p>遠隔学習について、必要性は認識しているが、現場の先生からは個別対応をしている状況で、オンラインでの学習に対応するのは難しいのではないかと聞いている。対応にあたる先生方の声をしっかり聴くというのが、ポイントになる。生徒にとって遠隔学習が望ましい形なのか考えることが重要であり、先生や生徒の声をしっかり聴く必要がある。</p>

## (2) フロア質疑・応答

質問者	<p>不登校特例校の申請をせずに、(夜間中学を) 始めから学齢期の不登校を受入れるような形にできないか。</p>
パネリスト	<p>今後検討していく。</p>
質問者	<p>知的障がいのある者の学び直しのフォローをしてほしい。実際に知的障がいのある者が学び直しをしている事例はあるか。</p>
コーディネーター	<p>一人ひとりに応じた学びを提供するのが大事な取組の一つである。入学前、入学後も継続して担当者と対象者が相談することが重要と認識。</p>
パネリスト	<p>夜間中学に在籍している者の障がいの有無に関しては情報がない。</p>
質問者	<p>鳥取県内における義務教育の未修了者は何人いるか。形式的卒業者は何人いるか。約2000名いる定住権を持った外国人の声を反映できているのか。母数をどの程度把握しているのか。夜間中学にかかる費用についても発信してもらいたい。</p>
コーディネーター	<p>様々な関係団体を通じてアンケートを依頼した。鳥取県においても全国的にも認知度をあげることが課題であると認識。認知度を上げる努力を引き続きしてまいりたい。</p> <p>→鳥取県未就学者 764名(人口1万人あたり13.0人、全国は10.0人)</p>
コーディネーター	<p>通学費等について、通学する人数を考慮し、検討を進め、決まったことについては県民の皆様に広報してまいりたい。</p>

### 3 質疑・応答（2日目）

#### （1）パネリスト質疑・応答

パネリスト	<p>&lt;夜間中学における鳥取県の方向性について&gt;</p> <p>○ 夜間中学に関する周知について</p> <p>県民に広く周知するのとピンポイントでニーズのあるところに近い関係団体に積極的に働きかけて理解を深めていただく。いろいろなところに出向いて直接話をして草の根でやっていく。すでに入学している生徒さんからも働きかけをする団体等の情報を得ている。広くという点ではマスコミの力は大きいと考えている。</p>
パネリスト	<p>潜在的なニーズは多くいると思う。民生委員と話をしたり、市報・町報に情報を入れてもらうように連携したりすることが考えられる。自分がスピーカーになって夜間中学のことを伝えていきたい。</p>
パネリスト	<p>周知の難しさを実感するところ。2回目のアンケートをお願いしながら、夜間中学の実際のイメージが伝わらないのが課題ではないかと感じている。体験入学とか、他県の様子とかこれから鳥取県が作ろうとしている夜間中学の姿を例えば、動画にして、多言語でテロップを入れながらPRしていくのが効果的ではないか。</p> <p>一般県民に知っていただくことが、その人たちにつながる方々への情報提供になると感じる。SNS等を活用していろいろな外国人のコミュニティとシェアすることを考えるのが一つの大きな戦略ではないか。</p>
パネリスト	<p>○ 夜間中学の形について</p> <p>しらさぎ中学校に日本語を集中的に学ぶベーシックコースがあることが素晴らしい。すべての学習の基本となる日本語の習得は、読み書きに相当な時間がかかると思われるので、（鳥取の夜間中学校にも）ベーシックコースがあるとよいと思う。</p>
パネリスト	<p>外国籍の者への支援が重要であるとして準備を進めてきた。関係団体と連携しながら周知・広報を行ってきた。現在、外国籍の者13名と日本語支援が必要な日本国籍の者2名が在籍している。</p> <p>しらさぎ中学校に勤務することを前提に総合教育センターで日本語指導について長期研修を受けた教諭が2名在籍している。日本語の習得については幅がある。（入学希望者にとっては）学習言語の習得は難しいが、日本語だけを学ぶことはできないということを十分に理解した上で入学している。日本語をあまり話せない者が、半年たたないうちに会話ができるようになり、仕事に生かすことができていることが喜びになっている点を肌で感じている。</p>
パネリスト	<p>○ 安心して学べる空間の確保、自宅学習の有無等、個別の状況に合わせた配慮について</p> <p>令和3年1月の段階で入学の申請は14名であったが、3月の末には20名増えて34名になった。若い世代からは（保護者も含めて）9月から10月に掛けて相談が多かった。しらさぎ中学は自分のペースでやっていけばよいというスタンス。個別対応のために、生徒相談室を2室、進路相談室を1室用意している。保健室も休憩室としても利用することもある。SC、養護教諭と連携しながら、対応している。時間がゆっくり流れている。学校に来られなくなっても慌てなくてよいというスタンス。</p>
コーディネーター	<p>○ 中部・西部の入学希望者への対応について</p> <p>本校の運営を確立した上で、分教室を設置できないか検討</p> <p>★分教室を設置する上で、主な検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・分教室として使用可能な施設の確保</li><li>・分教室への教員の確保</li><li>・分教室の教科の持ち方</li></ul>

パネリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン学習の検討</li> <li>★県で進めるための方法を検討。学びを必要とする人への対応（案）</li> <li>・分校設置までは聴講生としてオンラインで学習</li> <li>・年間を通した体験学習の受入れ</li> <li>・学校行事への参加</li> <li>・授業時間前の個別学習支援</li> </ul> <p>○ 遠隔地の入学希望者への対応</p> <p>遠隔地からの希望者の中には断念する方もあり、片道2時間かけて通う方もある。まずは、しらさぎ中学を軌道に乗せて、夜間中学というものを確立した中で、遠隔地のニーズ等に対する対応を検討することとした。就学援助については、市町村負担でお願いしている。通学費については、就学援助から出ている。市町村との連携が重要。</p>
-------	--

## (2) フロア質疑・応答

質問者	対象者以外の者（主にオールドカマーの在日外国人の者）へのニーズ調査が必要ではないか。県境を越えて生活圏が同じ地区からの夜間中学への受入れを可能にしてほしい。
コーディネーター	ニーズを確認しながら研究を進めていきたい。県境を越えた受入れについては、生活圏が同じであることは承知しており、相談しながら検討を進めることは可能であるので研究を進めてまいりたい。
質問者	学齢期の不登校生徒も対象としてほしい。
コーディネーター	<p>平成30年度に設置された夜間中学調査研究会から学齢期の不登校生徒を対象とすることについて議論されてきた。学齢期の不登校生徒の場合、横の選択肢を増やすことも重要だが、形式的卒業となった後の進路として、夜間中学を一つの選択肢とすることも重要と考える。夜間中学を設置後、学齢期の生徒を受入れることが可能な状況になれば、（受入れについて）考えることができるのではないかと。</p> <p>不登校問題は、不登校特例校も含めてもう一度見直す必要があると県教委としても強く感じているところ。10月にはいじめ・不登校を考える会を開催予定であり、議題の一つに不登校特例校を入れている。夜間中学の取組と並行しながら不登校特例校についての話をしていくこととしている。（学齢期の不登校生徒を対象としないことについては）現状ということで理解いただきたい。</p>
質問者	（しらさぎ中学校に対して）卒業認定、部活動について聞きたい。夜間中学が令和6年度に鳥取市に開校した場合の中西部在住者への配慮をお願いしたい。地域社会との連携もしてほしい。
パネリスト	卒業に基準を設けていない。個別の指導計画を作成し、それぞれの目的、目標が達成された時点で卒業認定としている。何が学びたいのか、何ができるようになりたいのか、卒業後の進路等について個人面談で丁寧に聞き取りをしている。部活動については立ち上げができていないが、生徒、生徒会の意見を聞きながら考えていきたい。
コーディネーター	中西部についても学びの保障という観点から検討を進めていく。地域社会との連携についてはしっかり周知・広報を図りながら進めてまいりたい。引き続きご理解とご協力をお願いしたい。